

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念を掲げており、地域密着サービスとしての理念は法人内2施設のグループホームで共有している。事業所独自としては別に目標として掲げ、併せて職員で共有している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の皆様に理解して頂ける取り組みが不十分である。	○	今後より地域に密着し、理解して頂けるよう努力していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員全員が積極的に挨拶などに努めている。又、近隣の方も気軽に声をかけて下さることが増えてきた。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	花火大会、チャレンジデーなどの行事に利用者と共に参加し、地元の人々との交流を努めている。	○	運営推進会議等を通じ、助言、協力を頂きながら、地域との結びつきをより深める努力をしたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市内の他事業所と協働し、できる限り地域に役立つことができるよう努力している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価において日常業務を振り返り、外部評価において指摘を受けたところは改善に努める。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H20年4月より運営推進会議を立ち上げたばかりなので、利用者がサービスの実際、評価への取り組み状況等についても順次報告や話し合いをもって頂き、サービスの向上に活かして行きたいと考えます。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とはではないが、市の委託を受けて介護教室など行い、サービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な方が今の所いない。		今後は機会があれば勉強して行きたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で身体拘束委員会を設けており、その中に虐待防止も含まれており、全職員が研修を受け、その都度研修報告書を提出しており常に注意を払い防止に努めている。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する際、家族に重要事項説明を十分に行い、玄関に掲示している。不安、疑問等がある場合にはその都度電話面会時など、いつでも説明し理解して頂けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見・希望はいつも気兼ねなく表わせるよう接しており、いろんな意見が反映出切るよう努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会も多く、また本人様からの家族の声が聞きたいなどとの話も聞かれその都度電話を入れたりし、個々にあわせた報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今の所、苦情は聞かれてないが、家族からの意見は随時気兼ねなく伺っており施設内に意見箱を設け反映されるよう努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、毎日のミーティングの折、職員1人1人の意見が提案を聞き、反映している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	誕生日会、病院受診等毎月の行事等をみて勤務調整をしている。突発時の場合は職員間で話し合い、勤務変更するなど、柔軟な対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージが防げるよう、新入社員には、アセスメントを通じ、利用者や施設の事を理解してもらった上で関わってもらうようにしている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は極力受講するように配慮しており、職員それぞれの段階に応じて研修受講している。法人内では各委員会を設けて、参加した職員がその内容を各事業所に持ち帰り、職員全員が共有している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回(第2水曜日)西海市のグループホームで西海市認知症ケア研究会を立ち上げ、ケア研修等の勉強会を行い、発表したり、意見の交換を行ったりして、サービスの質の向上に取り組んでいる。		西海市より、認知症ケア研究会へ介護予防教室等の委託を受け、その中で活動している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	チームミーティングを開き、悩みや疑問点など話す機会を設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康状態や勤務状況を把握し、努力していることを認め、アドバイスをしながら各自向上心を持ち、就業できるように努めている。		
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安な様子がみられるなど、変化がある時には早めに自然な形で話し合える場を作り、十分話しを聞き、受け止め、安心して頂くなど信頼関係は生まれている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常日頃気兼ね無く、何でも相談して頂けるように接しており、十分な話し合いの機会を設けるよう努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いの上で今何が一番大切か支援相談員とも相談しながら見極め対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族からの情報を元に、本人の意見を尊重し、自由な暮らし方で、少しずつ慣れて頂けるようなサービス内容にしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃の生活活動を一緒に行い、昔話の中から経験を聞きながら、教えて頂き又、一緒に出来た喜びを分かちあっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の折、機会のあるごとに近況を詳しく話しており、家族も行事と一緒に参加して頂くなどお互いに共有し支えあっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	意見の食い違いなど生じた時は双方の意見を聞き、話し合いの場を多く設け、お互いに信頼関係が築ける様支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩の折に寄って頂いたり、いろんな催しの場に参加して頂くなどいつも本人様の希望を伺いながら、自由に出席するなど関係が途切れない様に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いの意見、話しが通じる様、職員が間に入り、声かけ見守りし、利用者同士の関係を支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も利用者、職員をたずねて寄って下さり、一緒にお茶を飲みながら近況を伺ったり、又家族が作った人形等持って来て頂いたり、行事等にも出席して下さるなど関係は続いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃本人様や家族様の面会の折に話を伺い、カンファレンス等で全職員が把握し、その人らしい生活ができるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者の昔話やさりげない日常会話、ご家族様からの情報収集を素に、サービス計画に取り入れ、経過観察し、状態の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりに合った過ごし方をして頂き、その日の状態を観察、記録し現在の状態を全職員が把握している。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	折にふれ、ご利用者様の状況について、職員間で話し、ご家族様の希望などを伺いながら、その方の現状に合った計画の作成に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に基づき最低3ヶ月に1回見直しを行っている。状態に変化があった場合は、設定期間に関わらず、見直しを行い、修正や計画そのものの変更を行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を見直し、計画の評価や新たな計画作成に反映させている。	○	記録の内容が十分とは言えないところもあり、今後記録の充実に取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	まだまだ事業所内で解決していることが多く、現状として、地域の中、馴染みの関係の中での暮らしとは言い難い。	○	状況や要望に応じて、どのような支援ができるのか全職員で考えながら、その実現の為に努力していきたい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今のところ積極的に行っているとは言い難い。	○	施設内だけの解決に留まらず、今後は地域資源を取り入れた支援に取り組んでいきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ入居者の他サービス利用は行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ実施していない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望されるかかりつけ医との関係作りに努め、連携をとりながら適切な医療を受けられるように支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師との関係を築きながら職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常の健康管理は主治医に相談しながら行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は安心して過ごせるよう、また早期に退院できるように病院関係者との情報交換や相談を密に行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、早い段階から本人や家族、主治医等と何度も話し合い、全員で方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者も何名かいた為、かかりつけ医とともに、チームとしての支援に取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	お互いに情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に排泄の声かけ等、本人様だけに関わる様、お知らせし誘導している。個人記録は、事業所で記入し、目につかない所に保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	いつの時でも、声かけを行い、本人様の希望を伺っている。あるいは、仕草や表情からも思いを読み取れる様、常に説得より納得を心掛けている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩をされる方には見守っていたり、本を転記するのがお好きな方には居室に畳を敷きこみ落ち着いてできるような支援を行ったり、それぞれの体調に配慮し、その日その時のご本人の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援を行う		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服や小物類はほとんど家族様が準備して下さるので、それらが1番似合っており、理容・美容も本人の希望の店に行けるよう努めている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今日は何を食べたいかを尋ねたり、下準備や下膳など出来ることは職員と一緒にして頂いている。食事と同じテーブルにて職員も摂り、1人1人の状態を把握して、楽しく食事が摂れるよう対応している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族様からの情報や利用者の方にも好みを伺いながら、おやつ、飲み物等を提供している。それが利用者全体に平等であるよう心掛けている。	○	
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1人1人の排泄パターンを把握しながら、その人に合った誘導・促しを行い、いつも快適に過ごして頂けるように努めている。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を希望する方には毎日でも入って頂いている。入浴を拒む方には職員を変えたり信頼している方の名前を出し、「その方に頼まれた」など声かけに工夫したり、又、清拭にするなど柔軟に対応している。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	パジャマ着用についてはそれまでの生活習慣を尊重し様々であり、家具も使い慣れたものを使って頂いている。又、昼寝の習慣がある人はどこで眠るかも自由である。夜間も場合によっては安心感を与える為に添い寝をしたり、職員の	○	
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事、接客、掃除、話し相手等、様々な役割を持って頂いている。好きなテレビ番組を録画し、いつでも誰でも観れるようにしたり、時にはレクで体を動かしたり外を散歩したりと気分転換を図っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の利用者全員は金銭管理が困難であり、ご家族希望にて所持している方はいないが、以前はある程度管理できる方がおられた時にはおこづかいとして所持し、本人様希望で事務所金庫に預る事もあった。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ・散歩・買い物等を多く取り入れている。玄関先での外気浴を皆さんで楽しむ事もある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事を通じて他の利用者や家族様と一緒に出掛ける機会を作っている。また、家族様の協力で普段はいけなところへ連れて行かれる場合もある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自ら番号を押し、かける事は困難だが、いつでも電話ができるようにしている。利用者から申し出がなくても時々こちらから家族様へ電話をし本人様とかわったり、家族様から電話があった際にも出来るだけ本人様にかわり会話		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に決まっていないので、来訪者の都合の良い時にいつでも来て頂く事ができる。場所も居室でもリビングでも希望に応じている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束防止委員会」が設置されており、法人内での研修で理解できている。日頃から職員相互で常に身体拘束となっていないか話し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	虐待や身体拘束についての施設内研修に必ず参加しており十分に理解できている。玄関にはチャイムを設置し利用者の所在の把握もできており、施錠の必要がない。早出の職員が開け、夜勤者が閉める。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は職員間の連携を密にして遠くから見守り、安全確保に努めている。夜間帯、利用者によっては本人・家族の了解を頂いた上で扉を少し開けたままで安全確認している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品のみ職員預かりとしている。台所の包丁は戸棚の中に見えないように保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の委員会が設置され、各事業所から1名ずつ委員として毎月の委員会に出席し、内容は委員を通じ各事業所へ速やかに周知・報告されている。事故を未然に防ぐ為の「ひやりはっと報告書」にて職員が気付く事を多くしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応の研修は受けているが、定期的ではない。	○	繰り返し行う事で確実な技術が身につくことから定期的に行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の方、近隣の施設、日頃の交流を始め、各消防分団長へ書面にて協力を頂けるよう伺い、了解を得ている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについての家族様への説明はできており、抑圧感なく暮らせるよう努めている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	些細なことでも伝達し、状態によって全職員で様子を観たり、必要に応じ受診・往診等を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はいつでも見れる場所に保管し、変更の際は個人記録、カンファレンスノートで確実に伝達している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為、自家製のカスピ海ヨーグルトが冷蔵庫に常備しており、献立の中に取り入れている。便秘の原因や及ぼす影響についても十分理解している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは毎食後促している。義歯のない方はうがいをし、自力で困難な方は介助にて清潔を保っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に残し把握できている。手をつけられない方には声かけ・介助により食べて頂いている。又、その日の状態に合わせて促している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内に感染衛生委員会が設置されており、委員会からの伝達、研修を通じ、対応等が周知されている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台拭きはミルクポンを使用し消毒している。包丁、まな板も使用前に消毒している。食材は新鮮なものを選び、すぐ使用するよう心掛けている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	住宅街の一面にあり、建物の街並みに溶け込んでいる。玄関先も一般家庭と変わらない雰囲気作りを行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは全体的に明るく、職員と入居者の会話も穏やかで、外からの騒音もなく生活音が心地良い雰囲気である。季節の花を飾ったり、絵手紙を展示している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や窓辺にはソファーや長椅子を設置し、いつでもどこでも座れるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも協力してもらい、以前使用されていた家具の持ち込をしてもらい、趣味好みを活かし、その人らしい環境で安心して過ごされるよう配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の時間には窓を開けて行っている。一人ひとりの体感、温度に合わせて室温・空調・冷暖房の調節をこまめに行っている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、洗面所などに入居者の使い勝手を考慮した手すりの設置がある。入居者のレベルに合わせて室内にも手すりがあり、自立や安全に繋がる配慮を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりに分かりやすく簡潔な言葉で、ゆっくりその人に合った話し方で伝えている。大きな文字で漢字をひらがなや矢印等を使って紙に書き、その人の目線に合わせて案内している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関口にはプランターで季節の花を植えたり、畑では野菜の苗を植えたり草を取ったりして園芸を楽しんでいる。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
98	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない